

「三陸津波伝承施設」～両石津波記念碑～ 岩手県釜石市

三陸のリアス式海岸の複雑な地形は、私達にすばらしい景観や良好な漁場を提供しているが、一方でその地形により、津波のたびに大きな被害をもたらしてきた。

釜石市両石町には明治29年及び昭和8年の三陸大津波の記念碑があるが、釜石市内には2度の大津波の被害を今に伝える多数の石碑（22地区40基）が残っている。これらの石碑は犠牲者の慰霊のためであると共に、後世に生きる私達への警鐘の意味も含んでいる。

多くの石碑の一つに、唐丹町字大曾根の県道桜峠平田線沿いに、昭和8年津波記念碑がある（石碑配置図18）。昭和8年3月3日午前3時5分に第1波が来襲、その10分後第2

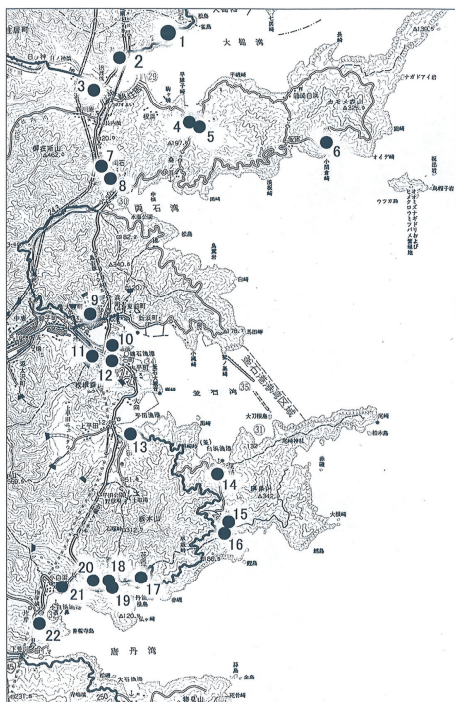
波、更に20分後に第3波が襲った。本郷では、満潮面上での波高は9.3m、満潮換算すると10.93mにもなり、この津波により本郷では人口613人中118人が死亡、行方不明210人、軽傷者11人、102世帯中97世帯が流失、1世帯半壊とほぼ全滅状態に陥った。

津波犠牲者の霊を追悼し、村の早期復興を成し遂げるため、東京朝日新聞や当時唐丹村長であった柴琢治氏、佐藤丑蔵氏の造成金寄付により昭和9年3月3日に建立された。表面には「昭和8年 津波記念碑」、その下に復興の歌詞と当時の岩手県知事石黒英彦氏の名が刻まれている。裏面には、造成金の寄付者と、建立世話人の名が刻まれている。

なお、唐丹村は、明治三陸大津波では県下で一番多くの犠牲者を出したところである。



唐丹町本郷記念碑「広報かまいし」より



石碑配置図



- 釜石市郷土資料館：かまいしの自然、民俗や歴史等を手作りで展示
☎0193-22-2046
- 鉄の歴史館：鉄の町釜石ならではの鉄の資料館
近くには釜石大観音（48.5m）が聳え立つ
☎0193-24-2211